明治卅六年十月

# 涓々録

巻

特別
14
1919
158

176435

○俗説百戴恩の記三冊　文政氏義孝元先代
世田無法の手稿なる表紙なし　恒貞
大なる一皮紙　各冊　百二十枚も綴りあり
を綴じたるものなり　印刷のものの書きひろてる
文章を閲したるものと　日々書きつのらぬ
なりしなり　天保二年　八月十二日なる
天保七年　十一月なる　八月十二日　一二部
を行せ幸志北書の一部を示さんう
表紙三冒頭のもの
天保六年乙未正月元日辛酉時、印刷せ

38- 8957

かくて旅宿にまうでゝ御前にて木地焼の意
新にいたまへて此木地焼を一皿を
二寸方許、底四分許の切焼にいたして
蒔絵（？）にて味をつけ土器の蓋物に
いれて燗酒を上るもつきて呑をいふ一献
に木地焼一枚二献三献に及べば木地
焼も二枚三枚とうつくしきものなり也

ふじ山わけてあそびし旅のまふ
めでたきためしのそのつき
梅の香にさそはれてさく梅の
花おもしろきすきの風

さればこそその御庭に富士山のつくり
おはしますこと二尺許杉林麿の直しあま
りけり雪の中に鍍の二朱銀一朱銀谷合
の上の緞木立の中に小判二歩金一歩
金一朱金をちらしてまじまじつくり布もと
うちも金銀を砂ごとく如く比砂子を撒
於てとなし仰けれどこれをつくりうと
いふものなにひとつさへこれ其手間ひろ
大なるものにて金子あまたの他たまひ
料の訳かそへてたゞ其程をしめすに
第二巻の末尾に杉尾光悠の四字を写せ

[illegible]ることを記せども、異説の杜の人をとりまぜ
[illegible]も記[illegible]てそる也、別
書御書さとりこそ杉原克徳の写を
数してあるべけれども
長王　御数拝杉原克徳之四字克臣
石橋義長しる迎状一紙奉備
御覧
江戸弁田雲北東ト長杉原克徳、
聖書遺漏思設雲、扁額言懸示不意
第三の中[illegible]杉原克徳の
一言[illegible]載[illegible]

東京博覧会

[illegible]載[illegible]、今左之
ハ一を抜く
天保七年二月廿九日[illegible]杉原克徳の伝記
[illegible]うをもして
御伝記を[illegible]
日経前大納言の
もとへ義政の書簡
仏記とそ已さとり
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゑぞすすまうしたまふ

御答む

御歌を清ておえはうまつるとて 源兵庫

大王の敷さらてそ越へしる

御返歌

こそあるをうんじ

つる〳〵紙にこの歌あるをは御歌むものや

うもはもしいの方うれし果の日の三

字ゆゑ又御歌もうそ とあ

ゑハ〳〵ひらかいうまいうまつるうん

とおもふこそ御方てゑや御歌ん

まてゑハあるをうまつるとおくるとと

遊ハさるべきハさるべきの石階を撫

と遊ハさるべきの祈願をくくやあ

うと

立山の高き奥居の書の有るべき高き年あ

るこそ歌詠者の長歌を出さんとを作りし

ハ義見ひしおの文於長義を見れば古立樹の

二書ゑゑ義を見ひを奥居を天長八載

しとゑ書見ゑて美濃一夏と八行紀書き

別紙百枝を磯ゑ本八角あるを各冊

二潜龍閣の義印あるを又古立樹を奥

居ゑのゑ鳳錦百山の方ゑ義を投行

一男子書入れ候ものも春屋之左のめくり手
書ものも

文化九年五月以青墨写師爲烏鉄村の手法
之校本爲別用墨加筆書
以清水浜見校本再校了

松之舎主人方面無伝刊

東樓原製

○米蘭の書手法の評者　こんな所書法
なる出さんとも根本為の文人ともなる作ら文人は
ならんの河ともの稀世の珍秘ともの大之文春屋
公一生論語出生作ら帳八寸丈一尺ひろ
の形本ともの紙ともの画賛の意新ともしの意
ともの銀子帳ともの古代更紗ともの古ともの
二分四方の大きさともの三種合ともの体を異
ともの別ともの大ともの春屋ともの格ともの論
論ともの行書ともの春屋ともの格ともの論
心城の雅むの序文を載ともの、こんな
文と古の大きさを用ひし事ともまるる

[illegible]

一毛詩　慶長活字本　十冊

清原宣賢講本

其尾ニ清原真人清原宣賢等の

奥書アリ

末十丁ノ終ニ書入アリ

東京帝國大學圖書

此本宣賢卿手澤ニ出ル也　寄也天台僧

少僧都宗淵所贈　年也自五月書之　今日

授大膳大夫藤長淵畢

文政十一年六月十三日　大弁勘解由長官

藤原朝臣

靜嘉堂文庫

一 日本書紀神代巻 巻ノ本 十六冊内十四冊欠
熟田彦模写 故田中勢雇 新本

一 太平御覽 宋版 補写本 とるこ
京都廣瀬氏所藏 無主 花山の印アリ

一 啓迪集 八冊
曲直瀬道三自筆原稿

東樓原製

一故唐律疏議　十三冊
　松下見林自筆　右山田錦不花本

一大唐六典　六冊
　松下見林自筆　口上

一位冠考　外三種　一冊
　大塚嘉樹自筆原稿

一演松中納言物語　巻子　三冊
　本居宣長自筆　故田中教忠旧本

一崇文院書殿舍集說　一冊
　春井貞幹自筆原稿　右山田錦不花本

一崇文院書宮殿集說　二冊
　春井貞幹自筆原稿　右山田錦不花

崇文旅苑

一 殿舍考　　一冊
　　喜井貞幹自筆原稿　故山田孝雄氏

一 宇多天皇事記　　二十二冊
　　塙保己一原稿　故山田教授所藏本

輪池旅苑

一 古今要覽稿　　七十六冊
　　屋代弘賢自筆原稿

東京帝國大學圖書

一 續異類物語　　寫本　九十冊（但十七冊欠）
　　尾崎雅嘉編　故山田孝雄氏所藏本

一 伴信友旅苑
　　伴信友自筆原稿　　十三冊

一 諸疑符目錄　　一冊
　　岡本況丹自筆原稿

一 義江和名類聚抄　　十一冊
　　狩谷掖斎自筆原稿

一和名類聚抄 箋注　六冊 但欠本
　摘斎本清写

一禁雑抄 刻本　八冊
　抄者の書入多し

東京帝国大学図書之印

○史料編纂掛出陳

一元文六年具注曆　写　一巻
　花山院常雅公具注

一延文四年具注曆　写　一巻
　和学講談所の印記あり

一碁本能記　写　一冊
　文政六癸未年記入合綴

冊首寛永三年四月吉日付箋和ノ
記アリ

一 洞院公定公日次記 写 一冊
彰考館本写ノ原書
時廿年六月京都白川文庫本筆
命勘類ノ要書ヲ影写ス 修史局

一 大原淡義聞書 別本 永正十七年校 一冊
奥ヘ
刷版豆州三島左近大夫景吉 永正十

七年 庚申三月日ノ記アリ

一 南浦明 別本 文永七年十月版 一冊
奥ヘ
元徳二年釋楚俊及明洲武三年
釋智及日八年五月釋宗泐等ノ
序跋ヲ附加ス

○黒板勝美氏

一 百萬塔 附毛塔 陀羅尼淨光經 印 一基

東京帝國大學圖書之印

○帝國圖書館藏

一 瑞木 法吉 元祿五年 三基

晉李瀚著 宋徐子光注

昌平叢書本

慶雲二年三月 山寺傳云云 又三之內

貞觀ト墨書アリ

其末文祿五年小瀧御屏風ヲ經藏ノ

士志云狩谷望之云余所見法字法吉皆是

去已後之錯版而已 文祿之刻世於是見

之云云 也壽寺重興云我國法校北方ノ次テ

始トスト

一 嘯亭集古録　宋王休撰　刻本　四冊　宝暦
向学者ノ印アリ　寛政三年カ
世書鐫刻解明宋槧中希ニ覩ル所敦煌
等ノ文字時鉄華ヲ編ス之ヲ合ハ四庫全
書提要ニ詳ナリ

一 太平記　古写本　四十巻
毎巻末義輝ノ印アリ中結書一紙アリ云公方
光源院義輝公御物世後従秀吉公御金

東京原本

弁大学院教授秀長御不相世御尼南門院
殿ニ被進之中中侍也　以下略ス　貞享元年
六月　伊吹平右ヱ門

一 諸家系図印譜　一冊
奥田直枝編
系図印ノ実物ヲ載セテ編集セシ
モノナリ

一 安南志略　元黎崱撰　活人堂刊　十九冊
士礼居精校本　小島氏図書　壹千廿四

五部あり

往昔諸古書の載ノ事を略ハ印刷書也

一 諸家系譜 一冊

徳川時代治候旗ノ花押ヲ載抜キ帳トナ

セシモノ

一 大東輿地図 刻 二十二枚

古山子校刊トアリ

一 大鏡 藤原家系図 三冊

東樓原製

第五巻ニ三百年以前ノ古文書ト記ス

一 延享寛暦

昭和時代 里本ハ業書紙 朝比奈家力證

若西ノ記載ス

あるいは業書紙の裏ならんかこれも延

享寛暦時代ノ里本ハ希覯ノモノトス

一 楠木葉書 三冊 和祥

伊達染音福 二冊 文政

妖物十番 二冊 〃

寛暦十三年

和祥ハ表紙又ハ里作者ノ名ヲ書キモノ文政亦

之二次り

一百人女郎品定　八文字屋自笑作　二冊　享保八年
　　西川祐信
本紙袖付ノ絵本ヲ彩色ト最也書
を以て丁寧とあれ但しあるの絵板ヲ附セラレ
しを以て丁寧なるものしをいふ

一宇計比言　一冊
かぶき事淵ヲ人ヲ出シ狂歌ヲ和ヲ
絵ヲ入レタル
此狂和書の流行の源に茅の海と事記

東樓原製

うるを西伊し本屋宣長が著の陰山つ玉伝
的おうおう廿七人嘉九名自四名のうるうる自
文文三年和四年十月

一舞生図　宮　二冊

一絵本春扇　三冊　絵師二
　　鳥居清長
一江戸風俗的絵歌書画　三冊
　　長尾祐春画　横四帝家名代　江戸市川
　　寛政年大宝庫大宝庫大宝庫大自者の絵

二十五帖

一 梅園動植物図 一巻

一 名古屋山三郎伝 一巻
英一蝶の筆と云ふ
一蝶と早義古巻つゝ送る書状とある
巻端に添ふ

一 夢中問答 新本 永享三年から七十年ばかり 三巻
足利直義と夢窓国師との問答

東京帝国大学図書館

一 本朝集 永享六年距今凡四百七十年巻
田中勘兵衛山蔭
永享二年四月下旬四月朱方四年
四月下旬六月 方具注暦ノ紙背ニ
書シタルモノナリ

一 蒙求抄 二巻
清光宗京の著
光行元久甲子(距今七百年)ノ序跋アリ
天台座主慈鎮和尚真筆ト云ハル
仲の鎧之書写ナルヒ

一天台山記　宋本　唐徐微光著　一冊

宝紙ニ石谷玉振、安然先德真蹟、又
星使黎庶昌古佚叢書中ニ校トアリ

一新修往生傳　宋本　宋楊傑著　二冊

高山寺の墨印あり
上巻末ニ大治五年（距今七百七十五年）八月
十日書之同日交点了
下巻末ニ大治三年十一月十日午刻書之同日

内一校了、五年□□二日對他本交点了、次ニ佛
法自録二十九行ヲ挙ケ末ニ出三寧元年
六月□日謹奏　錢塘云々釋文義勧縁
ト記ヲ所謂粘帖本ナリ

一守貞漫稿　寫本　二十一冊　内六冊
自序アリ（嘉永七）
本書ハ三都ノ風俗ヲ類聚シ図畫ヲ挿入シテ説明
ヲ風俗考料ニハ尤便アリ

一成唯識論述記　刻本　十冊
百箱度十一　陀羅尼経ヲ除テハ古版中ノ最

十八ノトス
出版年代 遠久六年 克盛ノ刊本アリ或ハ其
往巻ニアラサルカ

一 山谷大全詩注　元槧　二十巻
仰字校注アリ　著者ハ京ノ五山僧侶

一 佛説妙吉祥最勝根本大教王経　三帖
弘教大師法賢奉詔譯　宋版
宋人書スル所ト云
高山寺印アリ　田中勘兵衛ノ跋

一 五経正文　弘版
義清王子ノ序　十一冊
浅野梅屋若漱芳容書書記云ヘリ時大内義隆
萬好典籍擇邦臣精選托明商船求印刷經
史其書多ク篤存、掃刻鮮好、世以為珍奇、如
此五経其最也云ヒ義隆カ紙ヲ以テ送リ書籍
ヲ印行セシメシコトハ先人旅記ニ見エ、此書梅屋旧
蔵ナリ

一 庶物類纂　宇本
稲生宣義編　千巻　四百十一冊
室鳩巣ニ序　三輪ト東郭序アリ

此書庫百二十年ヲ歴テ書ヲ序ス詳ラ

○音韻之部

一 韻句　宋版　五十四冊

上衛茶村義本

一 文獻通考　刻本　一百冊

田上義

一 經國大典　所傳統釈　後疏釈　六冊

田上義

一 僧傳排韻　慶州法說注　刻本　三十冊

延寶八年校　田上義

一 方輿勝覽　祝穆　刻本　二十冊

宋版（年月未詳）田上

一日本紀分類　写本　永正十年　廿六冊
　　日上義平

一傍廂　写本　自寛喜歴応　五冊
　　天保九年

一類句和歌集　十巻　写本　廿四冊

以上八種

東京博覧会

○角田竹冷出品

一新選犬筑波集　山崎宗鑑　刻本　流布本　一冊
　　永正十七年ト傳フ

一新選犬筑波集　写本　流布本　一冊
　　永正十年ト傳フ

一新選犬筑波集　写本　流布本　一冊
　　表題称意鈔　花ヲメリシモノ
　　永正十年ト傳フ

一新選犬筑波集　写本　一冊
　　永正十一年ト傳フ

一 鷹筑波集　貞徳　寛永十五年　刻本　五冊

一 新増犬筑波集　貞徳　寛永二十年　刻本　二冊

一 新撰犬筑波集　北村季吟　万治三年　刻本　九冊

一 後選犬筑波集　井関重定　延宝二　刻本　四冊

一 俳諧古保玖　世田三武　延保三年　刻本　一冊

一 寺武獨吟千句　荒木田守武　天文八作　其角上板　一冊

一 狗猫集　杉江重頼　寛永十年　刻本　五冊

一 懐子　杉江重頼　寛永三年　刻本　十冊

一 乳母　杉江重頼　寛永三年　刻本　四冊

一 口真似草　京都松屋　寛永二年　刻本　五冊

一 玉海集　安原貞室　寛永二年　刻本　七冊

一玉海集追加　安原貞富　寛文七年　七冊

一源氏物語鏡　十島宗奨　寛治三年　鉛活字版　一冊

一同　謄書

一玉くしげ　沼田光誠　寛文二年　刻本　一冊

一河波千句　山本西武　桂梨一雪　寛文六年　一冊

一跡追　中川泰雲　寛文七年　三冊

東京帝国大学図書館

一絵入新百人一句　谷口宣以　寛文十年　刻本　一冊

一太加良久羅　山宮元成　柳亭信春　寛文十一年　合一冊

一本朝文選　木村四郎兵衛　寛永三年　刻本　合一冊

謄序ノ花ヲ印アリ是ハ内容義泰左京亮ト称セシ斜花樹平ノ堵ヲ佛号風虎ニシテ寛治ノ年文ナリ他ニモ此本ヲ入ベキ五数アリ

一伊勢保物語　生川春明　刻本　一冊
文和寛永の頃の板　生田長江の手を経て来る

一太平記　刻本　二冊
巻第二

巻二十六　計七十七冊

東京原製

○南葵文庫蔵品

一住吉記　古鈔本　四冊
太田和尚寺住一著　大神宮の寺を住吉
長の石碑を記す　北条氏著　八十四
才の時の記　著者年齢　十四歳
月世言とある

一仏石記　写本　一冊
妻鏡後鑑の妙事を記せしものか
仏石とは「仏手石石経の」と云
ふ事を出せり　仏手石を指すか

一　鄭吉流罪　大義一覽集ニ流例ニあり

朝鮮朝流罪の例

銅鼓吉雄生

紀州家の儒者北の流罪ハ朝鮮心朝鮮
ゟ伺ハの一ツして公の女婿井伊紀藩祖
徳川頼宣卿ゟ賜セラルルとき高ラし
ゟ流罪ニ処セラルルと
ゟ重罪の正文紀ゟ流罪ニあるゟ
うしく異ニ云

元和二年四月十九日伊達公の家臣金地院
傳長老林道春等発起し朝鮮ゟを以て
鄭吉流罪五十人を印刷す之を鄭吉の
と称す　公の嘉言録の中に鄭吉
を三郡ニ配所セラルルとあるも紀ゟ高敬
十郎ゟ記事中のまゝ
云り
今紀州ゟ流罪の者を二十有二人と
納めて朝大流ゟ千野伯　日ハ家三萬千
餘類、木流ゟ五千ゟ餘類あるも紀
論元文ゟ鄭吉流罪を作ること

朝鮮銅活字及ビ試ニ活刷シタル朱字ハ活字ニナシ

# 群書治要

五十卷　唐魏徵撰

内第四第十三第二十三闕

現存四十七

右文故事　近藤重蔵守重著　曰、元和二年正月十九日依照公之命、金地院傳長老、林道春等、管理以銅活字印刷此書舞駿河本者也公薨去之後有配付駿河御文庫書籍於三家之事焉、此本尚有數十部、蓋當時配付中物歟、

○松浦伯書出品

一武鑑　明暦　貞享　寛文　天和
　　元禄　寶永　正徳　享保
　　延享　寶暦　天明

一諸藩

一諸藩年譜

山鹿素行自筆原本
素藩諸藩年譜

官板　六十冊

一伏存書書

文政年間本邦ニ存シタル
書目メモ　より

一武家筆記　五十一冊

山鹿素行著

一長禄年中江戸絵図　写

一慶安江戸図

一寛永九年梓江戸図

一寛文十年江戸図

一むめ古改注[illegible]
一古文書　[illegible]

古文書　十二通

一足利將軍義昭ヨリ来書　廿九代松浦肥前守鎮信へ
入洛之義毛利羽柴相談申条
一大内義興ヨリ来書　廿三代松浦肥前守弘定へ
備藝両國之義任下知
一同　同
下松浦事承之通得其心候

一細川晴元ヨリ来書　廿四代松浦肥前守興信へ
去廿一日於摂州欠郡木村口合戦
一大内義隆ヨリ来状　同
波多家督事志摩守息
一同　同

二通

藝石之儀尼子種々令競望之条　天文九年
少貳残黨等　天文九年
一織田信長ヨリ来書　廿九代松浦肥前守鎮信へ
其表之儀無異子細之由

一寺澤志摩守より来書　廿八代松浦隆信入道道可へ
今度朝鮮より五島へ
一寺沢志摩守長束大蔵より来書　廿九代松浦肥前守鎮信へ
壱岐に有之城米
一酒井雅楽頭忠吉より来書　廿一代松浦肥前守隆信へ
公方様御歳暮ニ御服壱重
一駿河中納言忠長　同
祝儀之使者

○珊瑚通安出品
一出古文　元潮　十二巻　正集十巻　続集二巻
原名　恍惚論　細密　脱　安
ケンジス汗の事蹟を記せしもの
又解る時寄の者也

○余の出陳二品
一太平記　零本　十五冊
天文年中写　大形　片仮名交り

[illegible]文章[illegible]あるも
此書もと四種[illegible]の[illegible]人
いま其書[illegible]

一 相輪陀羅尼　　版本　　[illegible]

神龍[illegible]雲三[illegible]版
神護景雲の[illegible]いまし[illegible]法
[illegible]なる[illegible]此の一軸[illegible]の[illegible]
・[illegible]
本来此経の陀羅尼経[illegible]四種あり
第一 根本陀羅尼

第二 [illegible]相輪陀羅尼
第三 自[illegible]陀羅尼
第四 六字陀羅尼
[illegible]第二陀羅尼[illegible]
或[illegible]各種[illegible]一版あること
此の[illegible]人の[illegible]しるの傳
未[illegible]

[illegible]二品を[illegible]
[illegible]
天文[illegible]代の[illegible]
[illegible]の特徴[illegible]

羅尼をまぬかれ
ず印刷鮮明
なく正字略字をまぜる
事多く殆ど誤字
二院殿代を生
みたまふ事
を

○高野文庫出品

仁王經　　明本　　七巻

序跋云　譯梵列位の理深大師
の書ト云ふ

さいろう本　　宋本　　巻第

世尊寺行能の書
中江藤樹書

○石村貞一氏出品

大乘決定義經　　宋本　　二巻

高山寺本　宋太宗の序并に

東京帝室博物館

[illegible]

一豊国画行

一干祿字書　麦門冬入　寛永板

一新字文　麦門冬入　寛永十年刊　寛永版字

一今昔風土記　寛永十年刊

一遠年紙譜　全本

以上四五金ヒ出品

○黒田太久馬氏新品

一源氏物語　全印

甘露寺記長者

牡丹花肖柏書入

伏川田晶俊山新本

一板鼎物　全一冊

奥に「享禄四年辛卯七月
十二日大里定房」の印あること

一 歴朱四名集　　二冊
かなり方撰
曲直瀬道三著
青木印あり

一 寿の秘訣　　一冊
奥に「享七十七歳壬子自三月下旬
印月中旬於洛下書之」

也道書」の記すこと
青木印あり

一 和名并薬名　　一冊
曲直瀬道三著

一 書名不詳　　二冊
「定殿著」
首に「定殿著十三年十一月四日仲師
亟面所伝」十一月四日仲師
極伝」の跋あること

一 楽笛考記　一冊

拾年楽笛

奥ニ文政八年六月十九日楽笛定和
あるのひとくまるるこの記
なり

一 雅言集覧

岡白氏著

奥ニ弘化二年巳正月七十二老人
菅原正弘書云々の記あ

東陵原製



○菊池三九郎出源

一 竹枝集　一

著者未詳自著

一 嗽黄図説　一冊

著者不詳霞亭自著

一 海録集　十五

著者菊池淡雪自著

海社第一集

一 秀峯稿抄集　二冊

著者菊池海荘

巻田霞堂誌下評者自筆

一 歌曲さくらの花　文政元年刊本　七冊

南部篤生石山人著

菊池海荘編

○中川徳重氏出品

一 海録　二十冊

著者山崎美成自筆

一 一話一言附録　一冊

著者太田南畝

跋　紀の定丸

一 徳永種久紀行　七冊

（みやこのぢぐさ）

種久自筆

一 [illegible]の印定ひ[illegible]　　宇　七冊
[illegible]の如皐[illegible]
[illegible]村文[illegible]宇

一 取[illegible]七[illegible]
[illegible]者岡[illegible]保孝自著　　七冊

○亀谷行氏出版

一 [illegible]　　宇　一冊
[illegible]樊良枢

一 山鳥[illegible]佛記　　宇　一冊
[illegible]島岡孟著

一 即非全[illegible]　　枢本　五冊
黄蘗即非

一 越人関方録　　宇　一冊
大塚印南

一 芳洲文集　　宇　一冊

○千蔭傳記出版

一本朝水滸傳後篇　完　四冊

建印綬之著

山東京傳著

奥之富山の自序出入

伊東秋颯写

此書もと浪華の人、立富の口、自ら

號写せしものを京師秋颯そこ

写さしめたるものなり

記之知るる

本朝水滸傳一名志賀親平、建印綬

迄大人所著也、前篇葉を上梓、後篇

未傳を得ざる森川竹窓世黄宮秋書写

所著後篇、墨十郎之筆、手自釣

写、寛和三年癸亥季春初九起

筆、初夏念の畢功

本元

文化紀元之交、為山東軒主人謄

東秋颯

此書を謄写しなる東秋帆學文を生徒
生の門人なりしに依て伊豆頁地山候
雪を面々に徴んと文学士なりしを後
年幕仕しに之を印度南部の鎮西衛る
位儒を以て業とせしが天資懶怠且
薄命なりしを以て山系屬るものの
しに之を書あまを著して謀書の
此書を言ふ云々

天保十二年辛丑六月吉

時年七十二叟

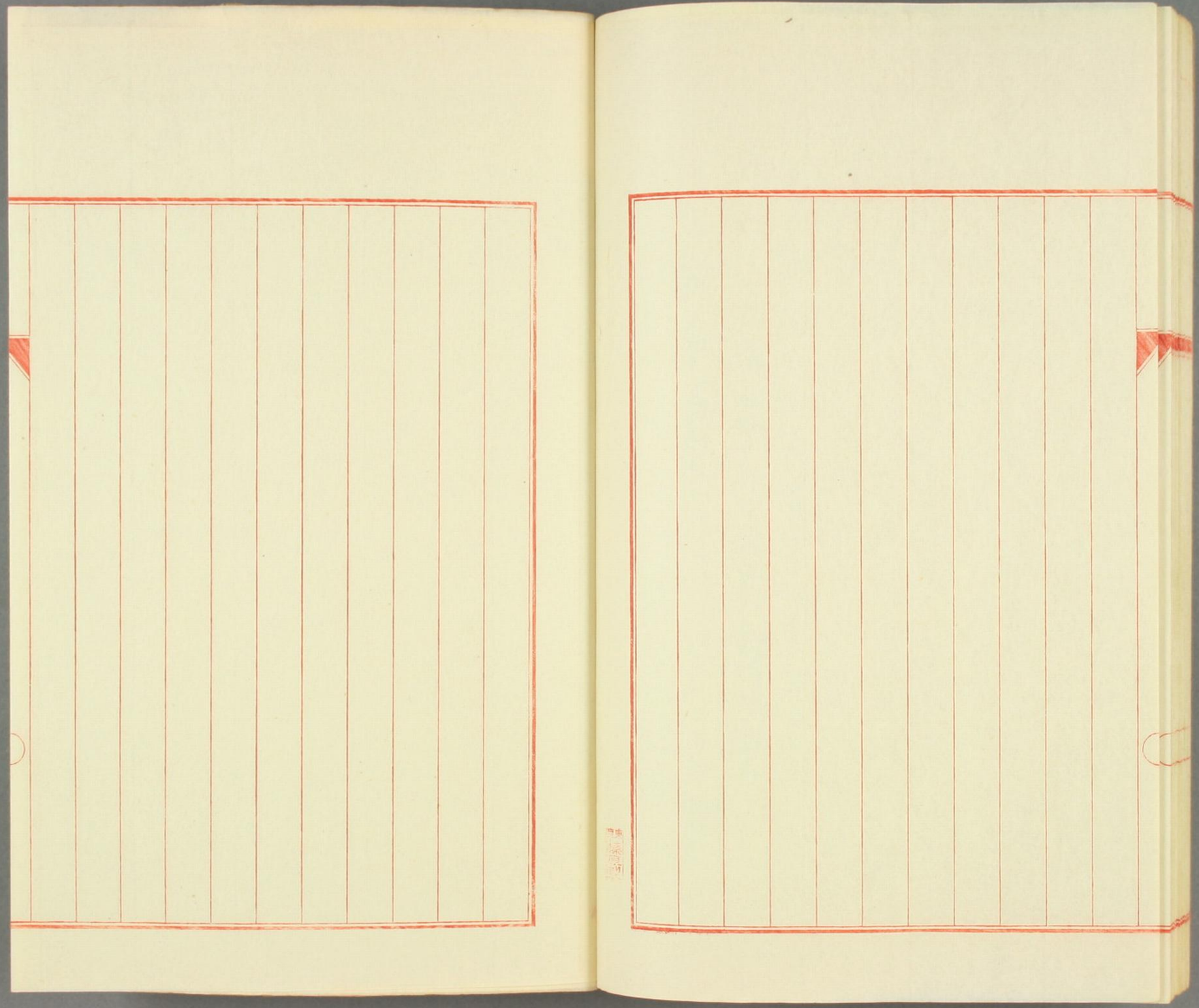
山系屬京山識 [illegible]

一水滸後傳

曲亭馬琴著

馬琴の訂正書入り

[illegible]



以下全て
白　紙

明治三十六年
第十月中浣起
筆
十五伸之人